

7月1日付け異動 のその後

〒32

2008. 7. 10

JR東海労東二運分会

人事異動から10日たちました。新所長もまた、前所長同様に「一部の所員」を気にしているようです。所内誌7月号が楽しみです。これは「とうにうん」でお知らせしたように、「勝治→近藤→西原→松本→岡田（各敬称を略しました）」という強力な？ライン」のなせる技でしょうか。

ところで、前所長を裁判所で見ました。運用課長としての業務なのか、それとも自らが証言台に立つ時の準備でしょうか。いずれにしても前運用課長・新近藤輸送課長に続いて8月28日に、西原運用課長が被告側証人として出廷します。**所員のみなさん、ぜひ裁判所に足を運んでみてください。**

西原運用課長は、東二輪所長の時にわたしたち東海労を「テロリスト的な行為に加担」した、と所長名で掲示をしました。しかも「事件の悪質性ゆえに警察に被害届を出すこととしました」とも書いてありました。しかし前々回の裁判では、被害届は出していないことが判明しました。これは東京駅前で東一輪の助役が暴力事件をデッチ上げたものの不起訴となったことを教訓としてのことと思われます。

ところで、会社の異動と時を同じくして窪野学さんがJR東海ユニオンに加入しました。グッドタイミングウ～です。

彼は、「決意表明」で、いったい私は何を狙っているのだろうか？と疑問を持ち、また非協力闘争ばかりでは再び雇用不安に陥り、国鉄解体の再来になりかねない、と思っていたと言っています。これは、前西原所長が昨年3月の所内誌で、JR発足20年にふれて、特に「国鉄の歴史を閉じる経緯」を当時の労働組合に責任がある、とした論法と同じです。労働組合が労働条件の改善を求めたり、異常な労務管理の強化に反対することを一切認めないということと同じです。

窪野さんが考えていたのは家族や経済的なことと「将来設計（助役などの上役を目指す」と解釈されてもかまわない）」だったはず。それが、いつの間にか東海労においては雇用不安を招いてしまう、に変わってしまいました。助役になりたくてユニオンに加入しますとは言えないからでしょうか。

「断ら切れば しがらみ新た 首しめる」 C D 頑爺（〒18に既載済）